

## 咳喘息における治療前咳点数と呼吸機能の重症度、治療への反応性との関係

石川県立中央病院呼吸器内科 野畑浩一、水口雅之、西 耕一

金沢大学大学院細胞移植学呼吸器内科 藤村政樹、石浦嘉久、安井正英、笠原寿郎、中尾眞二

**【目的】**咳喘息患者の治療前咳点数により治療前の呼吸機能の重症度や治療への反応性が評価できるか否かを検討した。

**【方法】**2週間の気管支拡張療法の有効性によって診断した咳喘息患者83名を対象とした。気管支拡張療法の「有効」の定義は、治療によって咳点数が半分以下に減少した場合とした。気管支拡張療法として、塩酸クレンブテロール(40 $\mu$ g/日)の定期内服と咳嗽発作時の塩酸プロカテロール(20 $\mu$ g/回)頓用吸入を用いた。咳点数は1日を朝、昼、夕、夜の時間帯に分け、各々の頻度と強さをそれぞれ0から4までの5段階にスコア化し、両者の積によって算出した各々の時間帯の点数を合計して1日の咳点数とした。治療開始前に呼吸機能検査、気道可逆性検査、気道過敏性検査を行った。

**【結果】**治療前咳点数と治療前FEV<sub>1</sub>、%FEV<sub>1</sub>、FEV<sub>1</sub>%、気道可逆性、気道過敏性、咳の持続時間、治療により咳点数が治療前の半分以下になるまでの日数と間には相関を認めなかった。また、これらは、気道過敏性が10000 $\gamma$ 未満の群で検討しても同様に相関は認めなかった。

**【結論】**治療前の咳点数は、治療前の呼吸機能の重症度や治療への反応性とは無関係である。